



【トップ記事】

33rd PCM and 13th FCG Meeting held in Bangkok

バンコクで開かれた第33回 SEAFDEC 計画委員会と第13回 FCG(p. 1 上段、p. 2 上段)

SEAFDEC 訓練部局 (以下「TD」という) の主催で、2010年11月30日～12月2日に第33回 SEAFDEC 計画委員会 (PCM) が、続いて2010年12月3日～4日には第13回 ASEAN-SEAFDEC 戦力的パートナーシップの諮問委員会 (FCG/ASSP) がタイのバンコクにて開催されました。

第33回 PCM では、以前 SEAFDEC 理事会で話し合われた優先順位と各国のニーズを考慮しながら、2010年の業務遂行結果と2011年の活動計画案が審議され承認されました。特に、PCM では2010年の FCG/ASSP のもとの活動の進捗状況と成果を考慮した上で2011年の活動案が提示され、新しい計画や財政支援の行われていない計画についても議論されました。また、この PCM には FAO/RAP の代表者も出席し、FAO は SEAFDEC と協力することを表明し、2011年以降の相互利益の分野と実行可能な協力の概要が述べられました。この PCM での計画の審議と提案の結果は、SEAFDEC 理事会にて上程され承認される予定です。

PCM に続いて開催された第13回 FCG/ASSP は、FCG/ASSP 計画の討論に加えて、2011年6月に ASEAN と SEAFDEC が共催する、タイ水産局主催の2020年へ向けた食料安全保障のための持続可能な漁業に関する ASEAN-SEAFDEC 会合「Fish for the People 2020」(以下「ASEAN-SEAFDEC 会合」という) での討論のためのフォーラムも行われました。特に強調されたのは、2001年に採択された「決議と行動計画」の実施に関する評価を行い各国の重要な問題を確認するために必要とされる、地域的・準地域的な技術的協議や国家の課題を含む会議の技術的な準備についてや、次の10年に向けた「決議や行動計画」の草案作りの過程はもちろん、特に CITES の重要な地域的な漁業関連問題に関しては、CITES の付属書にいくつかサメを掲載する提案について2013年の COP16-CITES で再度採りあげられる可能性が報告されました。そのため SEAFDEC はさらに各国間の深い討論と共通あるいは調整された立場を構築することによって、CITES の動向を注視することと情報収集に努めることを要求されました。

RTCs to support the ASEAN-SEAFDEC Conference 2011

ASEAN-SEAFDEC 会合 2011 のための RTC(p. 1 下段、p. 2 下段)

2011年6月13日～17日にタイのバンコクで予定されている ASEAN-SEAFDEC 会合の技術的な準備の一環として、SEAFDEC 事務局は TD と MFRDMD と協力して、2010年10月12日～15日に TD で日本のトラストファンドの資金援助による「持続可能な漁業管理に関する RTC (地域的技術協議)」と、2010年11月1日～4日にバンコクで SEAFDEC-SIDA プロジェクトの資金援助による「環境変化への適応に関する RTC」の2つの会議を開催しました。持続可能な漁業管理に関して RTC で話し合われた事柄は、2011年6月の会議の3つのテーマ、すなわち、テーマ1「漁業管理の強化」及び、テーマ3「漁業へのエコシステムアプローチ」、並びに、テーマ8「内水面漁業からの持続的食糧供給」です。一方、環境変化への適応についての RTC にはテーマ5「水産物貿易の新たな要求」及び、テーマ6「食料安全保障に向けた climate change への適応と代替措置」並びに、テーマ7「漁業

者の暮らしや水産業における雇用」について議論されました。

この協議には、ASEAN-SEAFDEC の参加国の代表や、FAO 地域事務所、アジア工科大学、メコン河委員会、World Fish Center、ASEAN-US 技術援助訓練機関 (TATF) 等の地域/国際機関の代表や専門家が参加しました。2 つの RTC の結果には、ASEAN-SEAFDEC 会合の枠組みのもとで次の 10 年の ASEAN-SEAFDEC 「決議と行動計画」をさらに発展させるために役立つ情報として提供されるそれぞれのテーマについての政策案が含まれていました。

2010 年末までに SEAFDEC は ASEAN-SEAFDEC 会合に備えて確認された 8 つのテーマを網羅する以下の 4 つの RTC を開催しました。①持続可能な養殖開発 (2010 年 3 月 17 日～19 日、タイ) ②水産物や水産加工品の漁獲後処理と安全性 (2010 年 7 月 20 日～22 日、シンガポール) ③持続可能な漁業管理 (2010 年 10 月 12 日～15 日、タイ) ④環境変化への適応 (2010 年 11 月 1 日～4 日、タイ)

[部局活動]

AQD works with and visits Japanese universities

AQD の日本の大学訪問と共同研究 (p. 5 上段)

AQD の科学者マリア・ロウェナ・エグイア氏とシニア・テクニカル・アシスタントのメアリー・ニア・サントス氏が 2010 年 10 月 25 日～11 月 5 日に日本の 2 大学を訪問し、遺伝子マーカーの研究を行いました。これはアジアの海洋遺伝資源の保存及び管理の中で、分子の遺伝マーカーの応用として、日本学術振興会 (JSPS) による東北大学と AQD の共同研究の一部です。エグイア氏とサントス氏が訪問した大学は、福山大学と東北大学 (雨宮キャンパス) です。両氏はサントス氏が 11 月 6 日から 12 月 14 日に前進的な遺伝子マーカーの方法について訓練を受けた東北大学の女川フィールドセンターも訪問しました。

AQD と JSPS の支援により行われたこの訪問はノギリガザミとアワビの資源保護に利用するためのミトコンドリア DNA 配列とマイクロサテライトマーカー変異のサンプルを正確に分析するためでもありました。

一方、日本の水産総合研究センター (以下「FRA」という) の平井慈恵氏は 11 月 10 日に AQD のアソシエイト・サイエンティストであるフィオナ・ペドロソ氏とステロイド抽出と魚の成熟評価の実験の技術を共有するために AQD を訪れました。

これらは FRA の出資によってナポレオンフィッシュの生殖生物学と種子再生の共同研究が行われました。

さらに 2010 年 12 月 2 日には鹿児島大学大学院水産学研究所の修士コースで学んでいる 7 人の日本人学生が AQD の研究所と孵化場を見学しました。彼らは特にサバヒーやアワビ、タツノオトシゴに興味を持っていました。学生達は石崎宗周氏とエルリンダ・ラシルダ氏とビサヤにあるフィリピン大学の 2 人のスタッフに同行しました。

[地域プログラム]

Regional Technical Consultation (RTC) on Traceability Systems for Aquaculture Products in ASEAN Region

ASEAN 地域の養殖水産物の生産履歴管理システムについての地域的技術協議 (RTC) (p. 11 上段)

MFRD は、2010 年から ASEAN 地域の養殖産業での正確な生産履歴管理システムを実行するため、また、養殖の生産・マーケティング・貿易のネットワークの中での国際的な生産履歴管理システムへの要求に応えるための、ASEAN 地域の養殖水産物の生産履歴管理システム 5 カ年計画を実施しました。

その計画の狙いは ASEAN 加盟国間の情報や経験を共有するための基盤を作り、ASEAN 地域の養殖水産物の生産履歴管理システムを促進することです。

この計画のもとで、MFRD は日本のトラストファンドの援助により 2010 年 10 月 12 日～14 日にシンガポールで ASEAN 地域の養殖水産物の生産履歴管理システムについての RTC を開催しました。この RTC には

ASEAN-SEAFDEC 加盟国の代表が出席しました。

当該 RTC では計画の成果、活動、時間工程について審議し、結果をまとめました。この会議では研修の内容と計画の日程について話し合われ、最初の現場研修は食用魚の生産履歴管理システムについて 2011 年にベトナムで行い、2 回目の現地訓練はエビの生産履歴管理システムについて 2013 年にタイで行うことが合意されました。

Training program on cetacean stock assessment

鯨類の資源評価に関する研修プログラム (p. 13 上段)

TD は 2010 年 11 月 23 日～25 日にタイのチャチュンサオ県で鯨類の情報収集及び資源評価調査方法論に関する地域研修プログラムを開催しました。

2008 年に TD は、東南アジアの鯨類の分布と構成に関する科学情報を収集するため、また鯨類と水産資源や生息地の相互作用や影響のレベルを査定するために地域の鯨類調査のプログラムを開始しました。このプログラムは日本のトラストファンドの財政支援による「東南アジアの鯨類調査：鯨類目視調査事業」のもとで実行されました。

鯨類に関する調査活動において、より深く理解するために、TD はまず 2008 年 11 月 21 日～30 日に鯨類調査に関しての室内研修と、M.V.SEAFDEC2 号による洋上での鯨類目視調査訓練を行いました。続いて TD は実際に M.V.SEAFDEC や他の調査船を用いた鯨類の目視調査プログラムを、フィリピンの M.V.DA-BFAR やタイ水産庁の R.V.Chulabhorn などの加盟国と共同で行いました。

2009 年 7 月 30 日～31 日には事務局/TD は東南アジア海域における鯨類の情報収集と調査に関する第 1 回地域的ワークショップを TD にて開催しました。このワークショップでは、鯨類の資源量査定の方法論に焦点を当てた現地調査での人的資源の強化が必要であるという提案がなされました。

そのため TD は鯨類の情報収集及び資源量査定調査方法論に関する地域研修プログラムを 2010 年 11 月 23 日～25 日にタイのチャチュンサオ県で行いました。この主な方針は、実際の鯨類目視調査や自然査定方法論における人的資源の量を強化/増加させることと、地域の鯨類資源研究に関する最新の調査情報を収集することでした。FR A 遠洋水産研究所の吉田英可氏がリソースパーソンを務め、特に調査船内での鯨類の実際の記録調査に向けた資源査定に焦点を当てた鯨類調査に関する、国/地域の構想から学んだ経験や知識に焦点を当てたこの研修には、SEAFDEC の加盟国から 31 人の代表者が参加しました。

部局便り

今年の2月21日より事務局次長秘書インターンとして勤務しております、大阪大学大学院言語文化研究科タイ語専攻の山崎美貴と申します。来年の2月末まで1年間お世話になる予定ですのでよろしくお願ひ致します。

さて、今回の部局便りは私が担当させていただきます。SEAFDECについてはまだこの場で語れるほど知ってはおりませんので、今回は私事ながら、私とタイとの関わりについて書かせていただきますので、今回の秘書はどんな人間なのか、SEAFDEC事務局（TDもですが）のあるタイはどんな場所なのか、お時間の許す時に興味を持って読んで頂けるなら嬉しく思います。

私は学部生時代からタイ語を専攻しており、3年前にもバンコクのシーナカリンウィロート大学で1年間留学しておりましたので、バンコクでの生活は今回が2回目になります。

大学入学前は、学生時代に2年間も滞在してしまうほどタイが好きになるとは思ってもいませんでした。というのも私の場合、タイ語を選んで入学したのではなく、大学入試のセンター試験の点数によって専攻語が偶然タイ語に決まったからです。（点数が良ければ第一希望の言語を学べるのですが、私の場合はそうではなかったで・・・）

入学当初はタイがどんな国かもよくわからず、特別興味を持つわけでも熱心に勉強するわけでもなく、なんとなくタイ語の授業を受けていました。しかし1年目の夏休みに、北タイのパヤオ県にある農業技術専門学校との交流プログラムを友人と計画し、初めてタイを訪れてタイ人学生と共に授業を受けたり農業や様々な活動を行う中でタイに魅かれてからは、タイ一筋の学生生活が始まりました。

そこで、一度訪れたら虜になってしまうタイの魅力について、個人的な意見ですが2点ほどご紹介したいと思います。

食いしん坊な私がまず紹介したいタイの魅力と言えば「食」です。タイ料理は1つの料理の中に、辛さ、甘さ、酸っぱさ、塩辛さなどの味が混在している場合が多く、味のバリエーションが豊富なところが魅力です。私は屋台で食事をとることが多いのですが、うっかりしているととてつもなく辛い料理を食べることになってしまいます。しかし注文を聞いてから作り始める店では、注文時に「辛くしないで」などと自分の好みを告げたり、出来上がった料理にもさらに自分の好みに調味料をかけることができるので、うまくいけば自分流のタイ料理の楽しみ方ができます。また出来上がったおかずが店頭で並んでいる店でもだいたい色を見れば危険な料理がわかります。赤色やオレンジ色の料理は唐辛子が入っていて激辛の可能性があります。また、緑色をしているので普通の野菜だと思って食べたなら緑色の唐辛子である場合も多いので要注意です。そんなこんなで最初の方は辛いものを食べてお腹を壊すこともありましたが、どの料理がどんな味かわかってきてお気に入りの料理が見つければ、日本と同じで主食の米を中心に肉、魚、野菜などをおかずにし、時には麺を食べるタイ料理の食文化は日本人にとってはなじみやすいと思います。また南国ならではの果物や、その果物から作られたジュース、ココナッツミルクをうまく用いたタイ独特のお菓子などもおすすめです。

またもう1点のタイの魅力は、タイ人の大らかで人懐っこい性格です。タイ人の多くはお喋り好きで、知らない人とでもすぐに仲良くなれてしまうようで、道端で初対面同士なのに会話が盛り上がっている光景をよく見かけます。友人と出かける時も友人が別の友人を誘ったりして知らない間に大人数になっていることがあり、顔見知り同士で集まる予定が知らない人が何人かいるということも珍しいことではありません。しかも初対面でも昔からの友人のように違和感なく溶け込んでいるのが、日本の学生生活ではあまり見られない光景なので、羨ましく感じます。また身近な人に対する接し方も日本人とは異なっており、例えば家族への感謝の気持ちを日常的に表すなどの日本人は照れてなかなか表現できないことも素直に表せることは見習いたい点だと思います。

その他にも、バンコクの便利さと対照的な他県の自然の豊かさ、100円あればごはん1食おなかいっぱい食べられてしまう物価の安さ、歴史的にも日本と関係が深く親日的な国民性など、日本人から見て魅力的な点がたくさんあります。

このようにタイに魅かれてからは、タイ語を熱心に勉強するようになり、タイ人留学生とも関わるようになり、3年生の時に留学しました。

留学を終え日本に帰国してからは大学でタイサークルを創設して毎週日本人やタイ人、その他の外国人などとタイ日文化相互理解を深めるための交流活動をし、タイについてもっと学ぶために大学院に進学しました。

学部時代の卒業論文では日本人のタイ観光、主にロングステイツーリズムについて書きましたので、大学院では、タイを訪れる日本人が増えたことと絡めてタイに浸透する日本文化についての修士論文を書くつもりです。(具体的なテーマについては変更してばかりでまだ絞り切れていないので現時点ではご紹介できませんが、、、) 大学院に入ってから授業や研究、サークルだけでなくアルバイトでもタイ語と関わる機会を増やしました。大学のプロジェクトであるタイ語 E ラーニングの教材を作成したり、大学の図書館のタイ語の文献情報を打ち込みデータベースを作成する作業をしたり、タイ人を含む様々な留学生にチューターとして日本語を教えたりするなど、日本にいる時もタイにどっぷり浸かって過ごしてきました。

これほどにタイが好きで、もう一度タイに住みたいと考えていた私ですので、担当教授に今回の SEAFDEC のインターンシップを勧められた時には是非やってみたいとすぐに応募を決断しました。渡航が決まってからはずっとタイで働くことばかりを考えながら日々を過ごしました。

そして実際 SEAFDEC で働く日が来た時には不安も少しはあったものの、楽しい気持ちでいっぱいでした。それから約2ヵ月が経ち、仕事には少し慣れてきました。しかしまだわからないこともたくさんあります。そんな時は SEAFDEC の日本人専門家の皆様や各国のスタッフの皆様が親切に教えて下さりますし、私がミスをした時もカバーして下さいます。日々学ぶことも多くこの素敵な職場で働いていることを嬉しく思います。私も一日も早く一人前になって皆様のお役に立てるように頑張りますので、どうかよろしくお願い致します。

編集後記

3月11日に発生しました東日本大震災におきまして被害にあわれた皆様に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

こちらタイでも様々な場所で日本を応援する募金活動やチャリティーイベントが行われています。世界中の人が心を痛める大災害で、日本にいらっしゃる皆様の悲しみや苦労は計り知れませんが、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

今回のニュースレター日本語抄訳版に関してお気付きの点、住所の変更等ございましたら下記連絡先までお願いいたします。

監修：松本憲二（SEAFDEC 事務局次長兼訓練部局次長）
川田忠宏（SEAFDEC 事務局シニアエキスパート・テクニカルコーディネーター）
佐藤昭人（SEAFDEC 事務局アシスタントトラストファンドマネージャー）
翻訳：山崎美貴（SEAFDEC 事務局次長秘書インターン）

○住所・電話番号
SEAFDEC Secretariat
P.O.Box1046, Kasetsart Post Office,
Bangkok 10903, Thailand
Tel: +66 2 9406326

○ E-mail アドレス: sato@seafdec.org, sdsg@seafdec.org